

平成 29 年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 三重大学大学院医学系研究科
臨床医学系講座
家庭医療学分野

氏 名 竹村 洋典

活動テーマ	「地域でのアクションリサーチで、健康増進を改善する」
実施期間	平成 29 年 8 月 21 日 ～ 平成 30 年 3 月 1 日
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>最初に大学の研究者と名張市の職員が、地域のキーパーソンとの会合で、プロジェクトを説明し、意見を聴きました。キーパーソンから肯定的な反応を得た後、大学の研究者は地域に精通する既存の健康関連活動やその他の地域活動の一部を観察しました。地域のキーパーソンに、プロジェクトのために地域諮問委員会 (CAB) として適した人々を推薦するよう依頼しました。CAB には地域代表者、名張市役所の職員、大学の研究者、市立病院の研修医計 20 名がメンバーとして参加しました。</p> <p>CAB では地域の人々の意見をどのように集めるか、活動に参加させるか、について議論しました。CAB でフォーカスグループのかわりに、ワールドカフェで人々の意見を聞き、同時にプロジェクトへの注目を集めることが決定されました。ワールドカフェを企画するために、何回かの CAB を開催しました。</p> <p>ワールドカフェでは大学の研究者が、地域アクションリサーチに学者と市役所と地域の方々が協力するという考え方や、他国 (インドネシア) での事例、およびその潜在的な利益について説明しました。続いて、名張市の保健師が現状の人口動態や地域の健康データを紹介しました。発表を聞いた後、参加者は「地域の健康問題」と「その問題を解決するために使用できる地域の強みや潜在力」に関して意見を求められました。</p> <p>各グループの議論は録音され、録音データは大学の研究者によって分析されました。その後、結果を基にアンケートが作成され、地区のすべての世帯に配布されます。地域の人々は議論で示された健康問題を評価します。アンケートの結果から、もっとも優先される課題へのプログラムが設計されます。</p>

プロジェクト実施は、地域や研究チームの状況に合わせて調整されたため、予定されたタイムラインより遅れました。その上、主研究者が10月に出産しました。しかし長期間に地域にかかわったことで地域と地域の方々をよく理解できて、次のステップのためのより良い、より現実的な計画を準備することができました。

(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり）

数ヶ月の間に三重大学の研究者と名張市役所の職員とまちづくりメンバーが、地域の健康づくり活動に若い世代を巻き込んで活性化させ、活動をより構造化し、または目的志向的にするために、連携しました。

(3) 共同実施者との連携状況

大学の研究者と名張市の職員は、人々の健康を改善するという同じ目的のもと、研究チームとして活動します。大学の研究者は研究計画を立案し、名張市の職員は実務面で大きな役割を果たしています。名張市の職員は、大学研究者と地域（まちづくり委員会）のメンバーを仲介しており、地域諮問委員会（CAB）にも積極的に参加しています。ワールドカフェのイベントでは、大学の研究者と名張市の職員の双方が参加者にプレゼンテーションを行いました。

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

本プロジェクトは、大学院生や初期研修医の教育の一部でもある研究活動としても機能します。それに加えて、これは私たちの部門におけるアクションリサーチアプローチの最初の応用です。この方法は部門のメンバーに共有され、研究方法論の充実に貢献します。

(5) イベント等開催実績（名称、実施場所、参加人数等）

- 地域のキーパーソンとのミーティング
2017年8月21日 まちづくり会長の家（8人）
- 地域活動の見学
2017年8月26日 骨密度測定 柏原集会所
2017年9月13日 スクエアステップ 長坂サロン
2017年9月21日 特定健診結果説明会 赤目市民センター
2017年9月27日 忍たま広場 赤目市民センター
2018年2月11日 東大寺二月堂松明調進 極楽寺（一ノ井地

区)

2018年2月24日 ふるさとウォーク in あかめ

2018年3月10日 東大寺二月堂松明調進 極楽寺（一ノ井地区）

- 地域諮問委員会（CAB）の会議
2017年9月30日 市民センター（20人）
2017年10月11日 市民センター（18人）
2018年1月15日 市民センター（18人）
- 保健師さんと医師のミーティング
2017年10月11日 名張市役所（6人）
2018年1月11日 名張市役所（6人）
2018年1月31日 名張市役所（6人）
- ワールドカフェ
2018年1月21日 市民センター（74人）
- 青年会代表とのミーティング
2018年3月1日 名張市役所（7人）

（6）これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

※継続4年目以降（認定）の活動については、これまでの継続した取組みによって得られた具体的な

成果について記述願います。

本プロジェクトのチームイニシアチブのおかげで、過去に同地域で行われたワールドカフェと比較して、特に若い世代の方々が多く参加しました。まちづくりと青年会の代表は、より若い世代が積極的に参加し、地域の健康問題について意見を述べたことにとっても喜びました。彼らはまた、データを科学的に分析することで、地域におけるプログラムの継続を見ることができ、地域に肯定的な結果をもたらすことを期待しています。

ワールドカフェのデータから、運動不足、不健康な食事、生活習慣病やがんなど、さまざまな健康問題が参加者から指摘されました。次の段階でこの結果はアンケートになり、各地区の全戸に配布され、その結果からプログラムによって解決されるべき優先課題を決定します。





